

何でも見とおしてしまふ。おじいさんの目は、うそも見ぬいてしまふ。だから、おれはけんかをしないんだ。自分にかつ、このことばを忘れてはいけな  
い。▽

からだは小さいくせに、子どもたちの先頭を歩く四郎は、どうどうとしていました。

子どもたちの住んでいる角島つの上島の部落へ入るまがりかどに来たとき、四郎は、ふと立ちどまつてふりむきました。

「なあ、みんな。おれが今、どんなことを練習しているか、わかるかい。」  
ふしぎそうな顔をしている友だちの前で、四郎は道ばたの木に、するするとのぼりました。やがて、とちゅうの太い枝にとりついた四郎は、下で見あげている友だちにさげびました。

「いま、そこにとびおりるけど、そのおり方をよく見ているよ。」